

令和3年度 学校評価（総括評価表）まとめ

徳島県立徳島聴覚支援学校

徳島聴覚支援学校の経営方針

(1) 徳島県教育の基本方針

未知の世界に果敢に挑戦する，夢と志あふれる「人財」の育成
「徳島ならではの」教育により，大きな夢や高い目標を持って，困難にぶつかっても挑戦し続け，未知を切り拓いていく，本県の宝である「人財」の育成をめざします。

(2) 徳島聴覚支援学校の使命

徳島聴覚支援学校は徳島視覚支援学校と同じ校舎内に独立して併置する全国でも類のない学校として，両校が連携・協働し「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を行うとともに，県内唯一の聴覚障がい教育，視覚障がい教育を担う学校としての役割を果たし，「共生社会の形成につながる特別支援教育」を推進する。

(3) 私たちが目指す学校

私たちは，聴覚障がいについて正しく理解し，子ども一人一人の個性を大切にして，日本語習得を基盤に据えた人間形成のための教育を進めます。

(4) 本年度の具体的な目標

- ① I C Tを効果的に活用するなど，幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業，学校行事，生徒指導，生活指導を実践する。
- ② 幼児児童生徒の可能性を見据え，発達段階や適性に応じた進路指導の充実を図る。
- ③ 地域（※）での聴覚障がい等に対する専門的支援と理解啓発，及び本校の教育活動に関する周知活動を推進する。
- ④ 会議の在り方を工夫するとともに，可能な限り校務の省力化を図ることにより，働き方改革を推進する。

※地域の範囲は，取組内容により該当する範囲が異なります。

【幼稚部】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒の障害の状況や特性に配慮した分かりやすい授業，学校行事，生徒指導，生活指導を実践する。 【①】	幼児が興味・関心を抱くような話し方，教材の提示の仕方を知り，保育に活用する。	活動計画 ①保育の様子をビデオ撮影し，実物，カード（絵，写真），iPadによる画像や動画等の活用の仕方や幼児の思いを引き出し思考を促す言葉かけについて検討する。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ①-1 幼稚部教員全員が，1名につき1回または2回，保育のビデオ撮影を行い，検討会を行うことができた。検討会では，視覚教材の効果的な提示の仕方やより適切な画像の選択等を学ぶことができた。また，各々が考える言葉かけや支援の方法を発表し合うことで，多様なアプローチの仕方を知ることができた。	総 合 評 価 （評定） A ----- （所見） 検討会や情報交換の時間をもつことで，それぞれの保育を振り返ることができ，改善を図ったり，新しいスキルを身につけたりすることができた。今後もこのような方法で教員の全体的なスキルアップを図り，幼児に適切な保育ができるようにしていきたい。	ビデオによる保育検討は，教員のスキル向上，保育環境の改善に有効であったので，今後も継続して行いたい。またその時に他学部教員の意見をいただく機会も検討したい。 幼児の下校後に行う教員間の情報交換は必要であるが，徐々に時間が長くなってきている。効率的に進める工夫が必要である。 ○ICTを効果的に活用している。大人でも言葉だけでは共通理解が難しいところを動画で共有することはとても大切である。子どものためにこのような手法を取り入れているのは素晴らしいと感じた。 ○指導者が個別になるとそれを評価する人がいないので，ビデオを活用することはとても大事な方法である。教師だけでなく，他職種の人とビデオ分析をすると視点が異なるので，さらに望ましい。また，幼稚部の先生だけでなく他学部の先生と行ってみるのもよいと思う。
		評価指標 ①-1 幼稚部教員全員が，1名につき1回以上，保育のビデオ撮影を行い，検討会を行う。 ①-2 週に3日以上，遊びや幼児の様子について幼稚部教員が情報交換を行い，次の計画を立てる。	①-2 ほぼ毎日，遊びや幼児の様子について幼稚部教員が情報交換を行った。「遊びの時間」の報告の後には，改善が必要と思われるところを話し合い，翌日の環境構成に取り入れたり教員の支援を変えたりした。		

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【小学部】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒の障害の状況や特性に配慮した分かりやすい授業，学校行事，生徒指導，	①児童が対話を通して思考を深め，自分の考えを述べること ができる授業を目指して，授業改善に取り組む。 ②関心のある課題について，主体的に学習に取り組み，深く学ぶことができる子どもを育て	活動計画 ① 児童の思考を深めるための配慮や工夫についてのチェックリストを用いて自己の授業のあり方を振り返る。 ②-1 タブレット端末を活用して児童が関心のある課題を見つける自主学習に取り組む。 ②-2 学部内でビデオを用いた簡易な授業	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ①20名中17名(85%)の教員が，チェックリストの評価が3項目以上上がった。3名は2項目上がった。フレッシュ研修Ⅱやステップアップ研修の機会を捉え，授業研究会を通じて，授業改善に取り組んだ。また，学部研修として低学年，高学年，重複クラスの	総 合 評 価 （評定） A	○より個別的に，一人一人を大切にした教育が進められていると感じる。教員個人が子ども個人と教育を進めているのではなく，子どもの将来像を見据えた，子どもたちに必要なことを教員集団がスクラムを組んで取り組んでいこう

生活指導を実践する。	【①】	研究会を3回以上行い，児童が主体的に思考しながら学習を深めるための方策を探る。	3グループで授業研究会を実施した。 ②-1 低学年の全員の児童が，1日に3回以上，自分の意見を発表することができた。各種調査や検査の結果をふまえて児童の実態把握に努め，アクティブラーニングを意識した授業作りを行ったことにより，児童は積極的に意見を述べる教室の雰囲気を作ることができている。 ②-2 高学年では毎日自主学習を行う児童が10名(77%)と多くなっている中，学習内容が難しくなり，毎日の宿題をこなしかねている児童が2名，まだ自主学習には至っていない重複学級の児童が1名いる。	----- (所見) 学力が伸び悩んでいる児童や重複学級の児童の指導内容や指導方法について，チームで考える仕組み作りが必要である。また，一人一人の教員が授業力向上を目指す雰囲気を高めたい。	していることが感じられた。 また，社会参加を踏まえて取り組まれていることが理解できた。 ○教師の指示に素直に応じることが主となる子どもが多いかもしれないが，ICTを活用することで，自分から解決しようとする態度や子どもの主体性はどう上がってくるのか教えていただきたいと感じた。	うになり，目新しさも手伝ってか，意欲的に取り組む様子が見られる。次年度は，毎日の授業や家庭学習への有効利用の仕方を学部全体で情報共有しながら探っていきたい。 また，愛媛大学への研究協力による検査の結果，文章読解につまずきのある児童の実態が明らかとなった。研究担当者の助言や研究結果を参考に，一人一人の児童に合った指導方法や言語環境の見直しを行いたい。 重複障がいのある児童については，将来の見通しを持った指導を行うよう，担任者会でしっかり情報共有して指導のあり方を検討していきたい。
		評価指標 ① 80%以上の教員が，チェックリストの2学期末の評価において，31項目中3項目以上の評価が上がる。 ②-1 2学期末に，低学年児童の80%が，1日に3回以上自分の意見を発表することができている ②-2 2学期末に，高学年児童の70%が週に1回以上自主学習を行っている。				

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【中学部】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
幼児児童生徒の可能性を見据え，発達段階や適性に応じた進路指導の充実を図る。 【②】	自分の学習課題に気付き，改善に向けて主体的に取り組むことができるよう指導する。	活動計画 ①学習習慣を身につけ，基礎学力が定着するために，毎朝10分間の「朝学習の時間」を設定する。 ②生徒が自分の取り組むべき課題について考えたり，見つけたりすることができるように，中学部教員が各授業を通して生徒の主体的な学びを促す授業を実施する。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ①毎朝10分間の「朝学習の時間」については，中学部教員のほとんどが「取り組めていた」と答えた。遅刻をせずに登校できると，ほぼ全員が課題に取り組めた。 ②各学期1回以上，学部会や学部研修の時間を確保し，学部全体で情報交換をし，学部全体で「朝学習の時間」に取り組むことができた。	総 合 評 価 (評定) A ----- (所見) 「朝学習の時間」をもっと充実させるためには，タイムリーな指導のための教員配置や教材・課題の準備が今以上に必要となる。学部内で検討をしながら来年度につなげていきたい。	○より個別的に，一人一人を大切にした教育が進められていると感じる。教員個人が子ども個人と教育を進めているのではなく，子どもの将来像を見据えた，子どもたちに必要なことを教員集団がスクラムを組んで取り組んでいこうしていることが感じられた。 また，社会参加を踏まえて取り組まれていることが理解できた。 ○自主学習について，自分で目標を決めて取り組んだり，自主的に行動できたりすることは大切である。そして，最終的には自立・就労していくことが目標である。 ○学校は守られた場所なので子ども自身の問題点も敢えて伝え，できること，できないことがわかる「自己効力感」	現在，「朝学習の時間」は当番の教員1名が見守りのみを実施している。この時間をもっと充実させるために，担任が指導したいという意見も出ている。また，課題等の内容についても検討が必要である。 教員配置や課題等の内容について，学部で再検討し，生徒が主体的に取り組めるような体制作りを目指す。
		評価指標 ①毎朝10分間の「朝学習の時間」に，学習課題に取り組める生徒が，教員アンケートの結果70%以上となる。 ②学部全体で，生徒の課題に応じた指導や支援が実施できるよう，各学期1回以上学部会や学部研修等で情報共有を行う。				

					を育成することが重要となる。そして、問題発生時にいかに解決することができるかが大切である。
--	--	--	--	--	---

「評価」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【高等部】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
幼児児童生徒の可能性を見据え、発達段階や適性に 応じた進路指導の 充実を図る。 【②】	希望する進路に沿った資格や 検定・模擬試験等に、生徒が主 体的に取り組むとともに、目標 達成に向けた指導や支援を実施 する。	活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 評価指標 B ----- (所見) 検定等の挑戦級が 高くなり、挑戦を躊 躇する生徒や、職業 科の専門的な学習に 集中したいという生 徒、検定等より進学 に向けた教科学習に 力を注ぎたいなど、 努力の内容は様々だが、 全員が落ち着いて自 分の目標をもち努力 できたと思う。 評価指標を検討しな がら来年度につなげ ていきたい。	○より個別的に、一人一人を 大切にした教育が進められて いると感じる。教員個人が子 ども個人と教育を進めている のではなく、子どもの将来像 を見据えた、子どもたちに必 要なことを教員集団がスクラ ムを組んで取り組んでいこう としていることが感じられた。 また、社会参加を踏まえて取 り組まれていることが理解で きた。 ○漢字検定以外の検定や5教 科以外の資格試験はあるので しょうか。パソコン検定とか 電卓検定など他に受けること の可能な検定があれば、受検 させたいと感じた。産業情報 科だけではなく、普通科でも 周知していただくことで、希 望する生徒全員が受けられる ようにしていただきたい。小 学校からプログラミング教育 も導入されてきているので、 様々な検定の案内をしてもら いたい。
		①-1 生徒に適切な資格・検定、模擬試験 等の情報を随時提供する。 ①-2 検定等の受検希望者には、合格に向 けた課題等を提供し、生徒自身が主体的 に取り組む学習環境を整備する。 ①-3 検定等の学習を通して、個々の生徒 が進路に向けた学習方法を習得すること ができるように学部全体で支援する。	①-1 3年生3名とも、自分の希望する進 路実現にむけ、情報収集や就業体験、オ ープンキャンパスへの参加など、主体的 に考え、行動することができた。1名は 県外の企業へ、1名は県外の大学へ、1 名は県内の短期大学へと、3名とも希望 を実現することができた。 ①-2 1・2年生8名の内、6名は漢字・ 数学・英語検定や校外模試に挑戦した。 検定では努力し、全員受検級に合格する ことができた。校外模試では、納得のい く結果が得られなかったと、さらに努力 する姿が見られた。検定に挑戦しなかつ た生徒の1名は、学科の専門的な勉強を 優先させ、学期末考査等では優秀な成績 を納めている。評価指標としていた80 %には至らなかったが、落ち着いて自分 の目標に向け努力できたと思う。		

「評価」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【渉外・安全課】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
地域での聴覚障がい等に対する専門的支援と理解啓発、及び本校の教育活動に関する周	防災避難施設としての役割を果たすために、災害避難時に備え、校内に備えてある物品の充実を図るとともに、三密を避けた「新しい生活習慣」の下での	活動計画 ①視覚・聴覚両校の教職員、幼児・児童生徒及び地域（八万地区）の方にとって利用しやすい防災学習室の充実を図るために、設備の配置場所や防災用品の見直しに取り組む。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ①防災学習室に感染症対策物品として、マスクや消毒液を多く補充したとともに、防護服などを一式にまとめ30セット用意した。	総 合 評 価 （評価） A	福祉避難所として、八万地区の地域の方々との連携を図りながら、緊急時に備えての準備を引き続き行う。次年度も、感染症対策物品の補充や点

知活動を推進する。 【③】	避難所運営を考える。 ※ <u>渉外・安全課における「地域」の対象は、学校所在地近隣である徳島市「八万地区」を対象としています。</u>	②コロナ禍における災害避難時に備えて、三密を避けた避難所運営について検討するために、 <u>地域（八万地区）</u> の方との視覚・聴覚両校合同の防災学習会を開催する。	ヘルメットは、従来の個人持ちから学校の物品としての購入に変更し、すべての特別教室への設置に向け64個購入できた。12月23日に、 <u>渉外安全課員</u> で防災学習室の室内配置や物品の確認を行い、90%以上の肯定的評価を得た。	（所見） 今年度は福祉避難所にも指定され、防災避難施設として、感染症予防を中心に、感染症対策物品を購入・補充出来た。避難所運営において、三密をさけるために必要なことや工夫について検討し協議する機会をもつことが出来た。	○子どもたち自身が、危険を予測できるようになってもらいたい。身の回りにヘルメットが見当たらない場合でも、自分で考えてヘルメットの代わりを考え、対応できるようになってもらいたいと考える。予測困難と言われる「令和の時代」にこそ、どんな時にでも「生き抜く力」が必要だと思う。	検、また地震などへの対策として、各教室や特別教室などへのヘルメットの設置を進めていきたい。 今年度は、新型コロナウイルスの影響で人数を制限した研修会もあったため、次年度はより一層多くの児童・生徒、教職員への共通理解を図り、防災への備えと避難所としての機能の充実を図りたい。
		③ <u>地域（八万地区）</u> の防災代表の方との連携を深めるため、徳島視覚支援学校と合同の連絡交換会を実施する。				
		評価指標 ①誰もが使用しやすいような室内配置を行い、使いやすさについて、 <u>渉外・安全課員</u> にアンケートを実施し、80%の肯定的評価を得る。 ②コロナ禍における災害を想定した避難所運営について、視聴合同防災学習会を年1回以上開催する。 ③両校 <u>渉外・安全課員</u> と地域の代表の方との連絡交換会を年間2回以上実施する。				

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【生徒活動課】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒が障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業，学校行事，生徒指導，生活指導を実践する。 【①】 会議のあり方を工夫するとともに，可能な限り校務の省略を図ることにより，働き方改革を推進する。 【④】	①各部の行事の計画や長期休業前の生活指導・各種委員会活動実施時や内容発表時に，ICT機器を活用し，幼児児童生徒が効果的な活動や，発表内容が分かりやすく理解しやくすなるように支援する。 ②課内の役割や仕事内容や方法を見直し，課会等の時間を短縮して円滑に校務を進めることができるようにする。	活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総 合 評 価	次年度運動会・文化祭が開催された場合は，3年ぶりの開催となる。特に運動会は，規模を縮小した午前中の半日開催にすることについて周知していたことを踏まえ，生徒活動課が中心となり企画運営し，幼児児童生徒に負担をかけず，充実した行事とするよう努めたい。 次年度以降も児童生徒のスマホ・ケータイ安全教室や非行防止教室や研修会を継続実施する。また保護者に対しても子どもが安全にスマホ等を利用できる情報提供の研修を行う。
		①-1 ICT機器を用いて各種安全教室や非行防止教室を行う。 ①-2 各学部の行事計画や生活指導・委員会活動の実施時に，ICT機器を活用することで参加者全員の理解を促す資料を作成する。 ② 毎月の課会の前日までに内容のレジメや資料を予め課員全員に回し，協議事項を各自が考えて課会に臨むようにする。	①-1 コロナ感染の防止を第一の目標に掲げスマホ携帯安全教室や交通安全教室をディスプレイを用い数力所に分けることにより効果的に開催できた。 ①-2 長期休業前の生活指導や生徒間の昼会や各種集会・委員会活動でもディスプレイ等を使用し，全ての生徒が分かりやすく参加することができた。 ② 毎月の課会やとくちょー祭開催前の臨時の課会でも事前に資料を配付し課会での意見も事前に考えることにより短時間の会議時間にて終了できるように計画し11回中8回実施できた。	評価指標 A	
		評価指標 ①-1 ICT機器を用いた生活指導や安全指導を年間1回以上開催する。 ①-2 各学部のICT機器の活用後に教員アンケートを実施して，活動内容の理解度についての感想や改善事項を収集し，次の活動への指標とする。 ② 年間11回実施する課会中，5回以上は30分以内で終了できるようにする。		文化祭の代わりにとくちょー祭を生徒活動課だけではなく教職員全員の協力の下に新規に開催できた。文化祭以外で意味のある行事であったと思う。	

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【人権・キャリア教育課】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
幼児児童生徒の可能性を見据え， 発達段階や適性に 応じた進路指導の 充実を図る 【②】	①人権学習等を通して，人権を 尊重し，自分の大切さととも に他の人の大切さを認めるこ とができる幼児児童生徒を育 成する。 ②幼児児童生徒の発達段階や適 性に 応じたキャリア教育の充 実を図る。	活動計画 ① 「新型コロナウイルス感染症」に関す る人権学習を各学部で実施する。 ・ 幼稚部・小学部では，学習活動や保育 の中で取り上げる。 ・ 中学部・高等部では，「新型コロナウ イルス感染症」をテーマにした人権講演 会を実施する。 ②-1 職場見学や職場体験，就業体験での 受入先について，全校の教員で情報共有 を行う。 ②-2 キャリアパスポートをキャリア教育 の実践に利活用する。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ① 幼稚部・小学部については，日常の学習 活動や保育の中で「新型コロナウイルス感 染症」について複数回取り上げ，発達年齢 に応じて感染症予防と人権問題について 学ぶことができた。中学部・高等部につ いては，11月下旬に県人権教育指導員を講 師として，「感染症と人権」についての講演 会を行った。事後アンケートで，87.5%の 肯定的評価を得ることができた。 ②-1 学部会において，幼稚部と小学部に ついては1回，中学部と高等部については 生徒の進路決定につながる状況となった 際は適宜情報提供を行い，教員間での理 解を図ることができた。また，職員会議に おいても生徒の進路についての情報提供を 実施した。 ②-2 令和4年2月のキャリア教育推進委員 会でキャリアパスポートの活用状況につ いて確認を行い，さらなる活用について検討 し，職員会議を通して周知を行った。	総 合 評 価 (評定) A ----- (所見) 新型コロナウイルス 感染症と人権問題に ついては，教職員も 幼児・児童生徒も理 解を深めることがで きた。また，進路情 報の共有について も，昨年度と比較す ると情報提供の機会 を増やしたことで教 職員の関心が高まっ た。キャリアパスポ ートの具体的な活用 については今後も継 続して考えていく。	○子どもが自ら危険を察知す る力が重要である。例えば， 聴覚障がい者の方でも，危険 なことを学習している場合で も，手話を使える人なら話す 内容を信じてしまう危険があ る。 ○学校教育の場で伝えていた り，保護者が十分に伝えてい たりしたとしても，その環境 から離れた時や，マニュアル 通りに行かない時に，いかに 対応するかが重要である。 ○自分で考える判断力・応用 力・思考力等を身につけるこ とができているかどうか。 ○社会で，実際にそのような 問題を見聞きする度に，先生 や保護者がいない場面で生き ていく能力を育成していただ きたいと思う。	障がいに対する差別の みならず，社会には様々 な人権問題がある。今後は， 幼児・児童生徒の発達 段階に応じて様々な人 権問題に関心をもち，差 別をしない・させない態 度をさらに意識できるよ う，専門家による講演会 や映画会等を開催する。 キャリア教育について は，在籍する幼児・児童 生徒の実態を踏まえ，福 祉施設や企業・事業所へ の進路開拓を積極的に進 める。キャリアパスポート の活用について，他校の 事例を参考にしながら， 個別の教育支援計画や移 行支援計画との接続を図 り，効率的・効果的に実 施する。 危険の察知や判断力・ 応用力・思考力，自立して 生きていく力の育成等， 学校卒業後を意識した指 導も取り入れていく。
		評価指標 ① 各学部で，「新型コロナウ イルス感染症」に関する人 権学習を年1回以上実施 し，事後アンケートで生 徒及び教職員の8割以上 から肯定的評価を得る。 ②-1 各学部会で1回以上 進路情報について情報共 有を行う機会を設定す る。 ②-2 年1回以上「キャリ アパスポート推進委員 会」を実施し，キャリ アパスポートの活用の状 況について，全教員で共 通理解を進める。				

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【研究・情報課】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見
ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導を実践する。 【①】	分かりやすい授業を行うために、思考力を深めるための配慮や工夫についてのチェックリストを用いて授業改善を行う。	活動計画	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総 合 評 価	今年度チェックリストの取り組みたい項目の評価が上がった教員・寄宿舎指導員の割合は77%であった。 次年度は、取り組みたい項目の向上につながるような具体的な方策を考えられる機会を持つようにしたい。
		①-1 思考力を深めるための配慮や工夫についてのチェックリストを作成する。 ①-2 チェックリストを用いて自己チェックを行い、取り組みたい項目を学習指導の中に取り入れる。（できるようになれば新たな項目を追加していく。） ①-3 学期末ごとに自己チェックを行い、自分の授業を見直す機会とする。	①-1 教員が行う授業におけるチェックリストと寄宿舎指導員が行う寄宿舎での配慮や工夫についてのチェックリストを作成した。 ①-2 教員と寄宿舎指導員がそれぞれのチェックリストを用いて取り組み前の自己チェックを行い、今年度取り組みたい項目を各々1項目以上決めて取り組むことができた。また、公開保育・授業週間においてチェックリストを参考にして保育や授業を参観することができた。	(評定) A ----- (所見) 定期的にチェックする機会を設けたので、自分を振り返るいい機会となった。また、項目を意	
		評価指標			
		①-1 昨年度取り組んだ、聞こえにくさの			

		体験から思考を深めるためにどのような支援や配慮が必要かについてのアンケートを検証し、その結果を基にチェックリストを作成する。 ①-2 各学部及び寄宿舍で自己チェックを行い、取り組みたい項目を1つ以上学習指導や生活指導に取り入れる。 ①-3 80%以上の教員・寄宿舍指導員が、2学期末の評価において、31項目中2項目以上で高い評価を得る。	①-3 学期末ごとに自己チェックを行い、自己を振り返る機会となった。95%の教員・寄宿舍指導員で、31項目中2項目以上評価が上がった。	識して授業をすることができたため、多くの項目で向上が見られたと思われる。 チェックリストを参考に授業参観をしたり、他教員にアドバイスをもらったりするなどして、どうすれば授業改善につながるかを考えることができた。	大切なことである。 ○ICTは、コロナ禍など、子どもと距離があっても授業が実施できるなどメリットも多いが、デメリットもある。聴覚障がい児の場合は、視覚情報が主体になるが、聴覚情報を活用するという視点を忘れないことが重要である。	
--	--	---	--	---	---	--

「評価」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【サポート課】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
地域での聴覚障がい等に対する専門的支援と理解啓発，及び本校の教育活動に関する周知活動を推進する。 【③】	地域に在籍する幼児児童生徒に対して，専門的な支援を行い，本校に対する理解啓発に努める。 ※サポート課における「地域」の対象は，徳島県全域を対象としています。	活動計画	活動計画の実施状況	総 合 評 価	○聴覚障がい児は，守られたところで育ってきていることが多く，挫折したことが少ないため，卒業後に挫折感を初めて味わうこともある。その時に，いかに対応できるかが課題となる。 ○学校を卒業した時に，誰にどのように支援を依頼すればよいのかが分からなくなることが多い傾向がある。 ○特別支援学校の重要な役割の一つであるセンター的機能として，聴覚障がいにかかわらず，特別支援学級になると課題が垣間見られることが多い。個別の指導計画や個別の教育支援計画が作成されているのかどうか疑問を感じることもある。 ○子どもの実態にかかわらず生活年齢相当の授業を行っている場合もあり，特別支援学校と特別支援学級がさらにつながったり，交流を進めたりするなどして，特別支援学級の指導を進めていただきたい。	巡回相談活動や乳幼児健診などを通じて，支援や啓発活動を行ってきたが，情報が届きにくい難聴学級が設置されていない学校に対しても巡回相談活動や来校相談ができることを知らせていきたい。また，巡回相談の際に，個別の支援計画や指導計画の作成に対する支援を積極的に行っていく引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて，夏季補聴相談や研修会等に影響が出ているが，地域のセンターとしての役割が果たせるようにできるだけのことをしていきたい。
		①-1 特別支援教育巡回相談員による教育相談を行う。 ①-2 教育相談のチラシを配布する。 ①-3 「夏季補聴相談」に代替する個別相談を実施する。 ①-4 難聴学級担任を対象とした研修会及び相談会を開催する。	評価指標の達成度			

「評価」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【寄 宿 舎】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見
ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導を実践する。 【①】	自治会活動や寄宿舍行事で、自分の思いや考えを表現し、積極的に他者と関わろうとする態度を育てる。	活動計画	活動計画の実施状況	総 合 評 価	○自分で目標を決めて取り組んだり、自主的に行動できたりすることは大切である。そして、最終的には自立・就労していくことが目標である。 ○学校は守られた場所なので子ども自身の問題点も敢えて伝え、できること、できないことがわかる「自己効力感」を育成することが重要となる。 ○聴覚障がい児は、守られたところで育ってきていることが多く、挫折したことが少ないため、卒業後に挫折感を初めて味わうこともある。その時に、いかに対応できるかが課題となる。
		①-1 ICTを用いた情報保障の工夫により、分かりやすさの向上を図る。 ①-2 自分の思いや考えを発表したり、話し合ったりする活動を実践する。	①-1 自治会活動や防災学習などICTを用いて事前学習を14回実施した。 舎生自らiPadを活用し自治会の原稿作成を行ったり、寄宿舍行事の事前学習を行う場面では、動画やネットを利用したりするなど、各場面に応じたICTの活用により、分かりやすさの向上に努めた。 ①-2 聴覚集会や寄宿舍行事などを通して、自分の思いを発表したり、話し合ったりする場면을年6回以上実施した。 聴覚集会では今年の目標や成果を発表し、自分の目標達成に向けて努力した点や結果についても発表し合うことができた。 また、元気っ子タイムの話合いでは、自分の思いや考えを発表したり、相手の気持ちをくみ取ったりしながら、役割分担などを決めることができた。		
		評価指標			
		①-1 活動前の事前学習においてICTを年6回以上使用する。 ①-2 舎生同士が意見を発表したり、話し合ったりする場면을年6回以上設定する。			

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった